

令和 6 年度常陸太田市原子力防災広域避難訓練

職員訓練評価結果

I 職員訓練評価の概要

令和6年度常陸太田市原子力災害広域避難訓練において、訓練における良好な点及び改善点について、各部長級職員が定性的評価を行った。

また、一時集合所（水府総合センター）運営訓練に参加した職員にアンケート調査を行い、良好な点及び改善点について意見を聴取した。

II 職員訓練評価結果

1 災害対策本部運営訓練（2月3日）

（1）良好な事項

- ・ 議論方式を採用したことにより、訓練がより実践的になった。
- ・ これまでの訓練と違った新たな試みを実施できたことは良かったのではないかと思います。
- ・ 議論方式の採用は、緊張感も少しあって良かった。
- ・ 議論方式は、良かった。
- ・ 各本部員からの意見を調整しながら進めたことがとても良かった。
- ・ 大規模災害が発生した場合、災害対応には多くの人員（マンパワー）が必要であることは言うまでもなく、そこには消防団員の活動が期待される。そのことから、ある一定の活動域は同調できた。しかしながら原子力災害の様な特殊災害における消防団員の活動には十分な配慮が必要であると考え。（消防団員は非常勤特別職地方公務員ではあるが一般市民に変わりはないと考えするため）その中での活動としてフォルダに格納されていた松江市消防団災害時活動指針（原子力災害対策編）を拝見し、とても参考になった。

（2）改善を要する事項（原子力災害対策）

- ・ 避難に際しては、避難をしない理由など聞いている暇はない。強制的な避難を促す必要があるのではないかと。福島事故では完全に住民避難をさせている。
- ・ 屋内退避時の食料等の調達や配付については、農政部（農林畜産班）が担当ですが、124集会所への搬送及び集会所での手渡しにつきましては、対応しきれないと考えている。
- ・ 屋内退避となった場合、まずは食料配付を最初に進めることでよろしければ、例えば、あらかじめ124カ所（または61カ所）に搬送する職員2名1組及び車両を割り当てる計画を立てておき、担当者（地域を知る地域担当職員など）が、市役所あるいは、支所から食料（何食分）を、集会所まで配送し、途中、町会長宅等に寄り、集会所のカギを預かり、集会所にて配付の準備をする計画を作成しておくことが出来ないか。
- ・ 高齢等で集会所に来れない方のリストも策定しておき、集会所での配付終了後に、高齢者宅を回るなどの流れを作っておくべきと考える。
- ・ 防災行政無線の放送文について、本部会議で時間をかけて検討する必要があるよう、事前に定例文として準備しておいたほうが良い。
- ・ 実際に原子力災害が発生した場合に、水道をどのタイミングで供給停止・開始をするのか、水道水のモニタリング検査の実施方法、浄水場の運転の継続の可否、市民の摂取制限及び必要な情報提供方法など、きっちとケース別にマニュアル化をし、それを関係者間で共有し、対応する必要がある。このため、早急に県や運転管理事業者と情報共有を行い、マニュアルを作成し、的確に対応できる体制づくりを図る。

- ・本市においても消防本部（消防団）、防災対策課等で協議、調整、整理を図っていただき、消防団災害時活動指針の策定を進めていただきたい。指針があることにより活動に対する安心、理解が得られ迅速な対応につながるのではないかと、さらに消防団員の安全が確保できると考える。
- ・広報文については、場面の変化に沿った広報文例が常陸太田市原子力災害広域避難計画第４章に規定されている。東海第二発電所の事故であれば水害等自然災害のような多様の災害ではなく定型的（事故に起因した電源喪失⇒注水機能喪失⇒ベント装置機能喪失⇒放射性物資放出）であることから、市民に正確な情報を伝達することを基本として、今回の運営訓練の意見を基に計画（各広報文例）の改正を行い、今後の訓練、本災害では協議時間の短縮を考慮し、確認のみに留めるようにしてはと考える。

（３）改善を要する事項（訓練方法）

- ・議論の経過や結果が口頭のみであったため、部員全員が明確に状況の把握及び共有が図れていなかったかは不明瞭であったと思います。改善案としては、ホワイトボード等へ書きだすなど、視覚的に状況を把握できる措置が必要かと思います。
- ・本部会議における様々な情報の共有を図るために、対策本部の決定事項等をホワイトボード等に掲示するなど、いつでも現在の状況を確認できる体制が必要ではないかと思う。
- ・実際に、意見を求め、対応策をまとめ、市長に提言する役割であったが、意見がまとめられなかった。自身の知識不足もあったが、意見は、わかりやすく、簡潔に述べて欲しかった。
- ・実施要領を読むとある程度は訓練の設定・条件、背景等についてわかるが、会議に臨むにおいて、事前にもう少し説明があっても良かったのではないかと思います。
- ・本部訓練ではテーマを設けての議論方式であったが、原子力災害時の職員対応は未知な部分が多く、現実的に実施可能な議論なのか疑問を感じた。
- ・自分で考え処理することを訓練しなければならないが、まずは、原子力災害時の避難シナリオを徹底的に身に付けさせることが大事ではないかと思った。
- ・今回の訓練においては、消防本部として実現可能な対応策を考え議論させていただいた。災害状況が刻々と変化する中で、各分野において早めの判断、決断は重要であると考え。今回の訓練手法は当初シナリオ非提示型訓練であったが、議論方式（劇場型）に変更された。実災害に近い形で実効性のある訓練を展開するにはブラインド型訓練（シナリオ非提示型訓練）を取り入れた方が、さらに効果的と考える。
- ・災害対策本部運営訓練の開催時期（市民参加訓練時期は別）について、本部員の心構え等を養ううえでも年度当初に実施された方が、何時起こるか分からない実災害に対し、迅速な判断、対応ができるのではないかと考える。

２ 一時集合所（水府総合センター）

（１）良好な事項

- ・職員の体制はちょうどよい人数に思いました。みな、事前の説明会をうけ、それぞれの担当場所にスムーズに配置できました。
- ・動線等のことで会場が混乱したことはありましたが、結果的に受付等において予期していなかったことが起きながらも各職員が適宜対応し、バスへの乗車から大子町への送り出しまで出来

たことは良かったと思います。

- ・担当者に限りがあるなかでの誘導でしたが、混雑状況に合わせて手の空いているスタッフが手伝いにきていてよかったと思います。
- ・受付からヨウ素剤の配布の流れについて状況に合わせて対応できた点が良かったです。
- ・受付から配布まで一連の流れをホールで行ったので、どこが混んでいるのかがわかり、応援に行ったり、人の流れを見て説明の時間を調整することができました。
- ・受付を終えた人を席に案内し、様式例 5 を配布、15 人程度集まった時点で説明を行いました。が、説明中に受付を終えた人が待機する場所がなく、席に案内することも難しかったです。そのため、10 人程度集まった段階で説明し、説明途中の方は後ろに座ってもらい、全員に説明できるよう配慮しました。
- ・ヨウ素剤配布のところで行列ができてしまったため、視察者受付の係員が対応しそこからはスムーズになった。
- ・ヨウ素剤の受領書の裏面に記載例があったことで記入内容の説明がしやすかったです。
- ・ヨウ素剤の受領書の記入内容が簡素化されたことで参加者の負担軽減につながりよかったと思います。
- ・訓練に参加した方が高齢者が多かったため、飴ではなく大きめのラムネだったことで、誤嚥の心配がなかったのは良かったです。
- ・当日の朝、業者の方と市民の方が避難してきたときの動線の確認ができたことは良かった。
- ・様々なマニュアルを作成していただき参考になりました。また、事前説明会の際に業者の方も来てくださったことが良かったです。

(2) 改善を要する事項

ア 誘導・表示

- ・一時集合所内での避難者への指示・誘導が今一つはっきりしていなかった感がありました。マイクでの説明やわかりやすい表示を掲示することで、よりスムーズな運営につなげることができるのではないかと思います。
- ・会場内で職員が説明していても、広いホールの中では声が聞き取りづらいため、案内板を設置するとか見える化を図らないといけないと感じた。
- ・水府総合センター入口から受付窓口までの看板等の案内表示及び誘導員の配置不足等、避難住民の動線確保が不十分であると感じた。
- ・受付の動線が分かりづらかった。
- ・避難者のホール内での動線が分かりにくいのではないかと感じた。①受付、②安定ヨウ素剤受取、③バス待機、というように番号の入ったボードを、上に掲げるとよいのではないかと。
- ・水府総合センターにおいては、対応する職員の人数も少ないせいか、誘導がスムーズではなかった。
- ・ホール内での各表示があったほうがわかりやすいと感じましたが、実際の避難時を想定するならば拡声器等で指示等をするような任務があれば良いと思います。
- ・受付等、係ごとに紙での表示があると避難してきた方はわかりやすいかなと思いました。
- ・「①受付」「②ヨウ素剤説明」「③ヨウ素様式記入」「④ヨウ素剤配付」のような、順番と表示があると良かった。

- ・ブース毎に看板を立てて次にどこへ進めばよいのか分かるようにすることもよいと思います。
- ・参加者が次にどこに行ったらよいのか分かるように番号で表示、ポール等で動線を確認するとよかったです。ただ、実際は避難指示が発令されてから時間的余裕がないので、机と椅子を配置するだけで精一杯かと思われますが、案内板、説明資料等必要物品一式をセットしておくとすぐ持ち出せるかと思いました。

イ 受 付

- ・県職員と市職員での受付方法等の認識のズレも生じていたように思えます。連携すべきであるので事前からの情報共有が必要だと思いました。
- ・県職員（IC カード受付）と、意思疎通がなくなってなかった。どちらの受付に案内するのか分からず、避難者はたらい回しになっていた。
- ・IC カード受付は、名簿に記載されているのに IC カードを持っていない等、たらい回しになってしまう方が多数いた。
- ・受付では、IC カードでの受付と受付票での名簿データが共有出来ると良いと思いました。
- ・受付名簿の文字が小さすぎて、確認の際に避難者に大不評。見えない。（A4⇒A3）
- ・老眼鏡の準備が必要だった。
- ・氏名記入の受付は、代表者のみが記入する方法だと、班員全員がそろわないと受付できない。班内の何人来ているかの把握も難しく、顔も分からない方もいた。全員が記載するやり方でないと、災害本番の時は大混乱する。町名ごとに受付の数を増やし、全員に記入してもらう方法が良い。ナンバリングにより、人数把握も容易にできる。
- ・事前説明では、受付簿に IC レーン以外の方に名前を記入してもらうよう説明を受けたが、当日現地に行ってみると、代表者のみ名前を記入することになっていて、混乱してしまった。
- ・代表者のみ受付ををするとしても、同じ班の方がまとまって受付に来るわけではなかったことと、誰が代表者なのかわかっていない方もいて、受付がスムーズにできなかった。受付は町別にし、一人一人記入してもらう方法がいいと思った。

ウ 安定ヨウ素剤の説明・受領書の記入・配布

- ・安定ヨウ素剤の配布を担当していた職員の対応は丁寧で良かったが、1 人での対応であったため、列ができてしまっていた。職員の配置人数は、検討が必要だと感じた。
- ・安定ヨウ素剤配布のスタッフが 1 名配置であったが、名簿の人数確認とヨウ素剤配布の 2 名体制の方がよいのではないか。
- ・ヨウ素剤の配布は間違いがあってはならないため、できれば記入用紙の確認をする 1 名、配布する 1 名が隣に座って行うイメージが良いと思います。（配布数については 2 名で一緒に確認しながら行う）。
- ・ヨウ素剤の配布が大混雑した。バスの中での配布は出来ないものか。
- ・受付が終わった順からバスに乗ってもらい、ヨウ素剤の説明・様式記入・ヨウ素剤配付をバスの中で行う等、避難者が動く時間を減らした方がいい。
- ・ヨウ素剤の受領書を記入するためのテーブルが 9 つだと 1 人で対応するのは難しいと感じました。テーブルを 6 つほどに減らして 1 つのテーブルにて 2～3 人が記入できるようにした方

がよいと思います。

- ・大勢の方が同時に受領書を記入するためボールペンの数が少ないと感じました。1つのテーブルに対して3〜4本ほどあった方がよいと思います。
- ・受領書を記入するテーブルの向きが動線を考えたときに不便と感じました。テーブルはヨウ素剤の説明をするブースからみて真正面にあったほうが記入場所が分かりやすいと思います。
- ・受領書を記入するテーブルとヨウ素剤を受け取った人が待つスペースが狭く、どこからヨウ素剤を取りに行けばよいのか分かりにくいと参加者の方から相談がありました。受領用のテーブルと待つスペースの間に人二人分くらい離れている方がよいと感じました。
- ・受領用のテーブルからヨウ素剤の配布の説明場所と配布場所が近いため参加者の方が混在してしまうことがありました。会場の壁に沿ってブースを作り、受付、ヨウ素剤の説明、受領書の記入、ヨウ素剤の配布が隣り合うように並べてまとめた人数が流れるようにした方がよいと感じました。
- ・配布の場所に長蛇の列ができ、市民からご指摘を受け、業者の方が調整し視察者受付の職員1名が手伝ってくださり、流れがスムーズになりました。その後、もう1名の保健師（安定ヨウ素剤説明）のフォローもありました。今回一人の割り当てでしたが、一人で行うのであれば、記入用紙のチェックが済んでいるのであればなんとか対応できるようにも思います。実際には、一緒に来ていない家族も記入していたり、年齢が記入漏れであったり、職員が記入する配布の個数の欄も記入してあったりと、確認にも時間がかかりました。また、配布するものが多く、受け渡しそのものにも時間がかかりました。配布の場所に来て質問してくる方も2〜3名おり時間がかかります。
- ・会場内誘導の職員に記入が正確にできていないことを伝えに行き、早い段階で修正できるようにしました。
- ・記入例が記入用紙の裏面にあり、市民の目には入らなかったため、机の上にも記載例を貼るなどが必要であると思います。
- ・記入用紙については、配布数の合計を記入できる欄があると良いと思いました。

エ その他

- ・避難住民へのリアルな情報提供（放射線の拡散状況等）が必要と感じた。
- ・会場内での臨機応変な対応が必要と感じ、それを可能にするには訓練で練度を上げていくことが必要と思いました。ホールエントランスからホールへの誘導は行いましたがホール内の動線について、状況を見ながら誘導すべきであったと思います。どこからどこまでを、どこまでのことが出来たのか責任者として認識しておくべきだったと痛感しています。
- ・防護服一式を着用したのですが、ゴーグルが曇ってしまい、全然見えなくなり、実際の事故の時はどうしたらいいのだろうと心配になりました。
- ・拡声器等の備品が、新品のままでした。電池も入ってなく、開封もされていなかった。使用にあたり、余計な時間がかかった。（受付について「大きな声で指示してくれないと分からない」とのご意見等に対応）
- ・グループ分けになっていたため、ちょうど良い人数でのバスの振り分けに苦慮した。本番を想定すると、グループ分けは非現実的である。

- ・会場内の表示、必要に応じて電池式のマイクやメガホンが使用できるとよかったと感じました。
- ・実際の場合には一緒に来た家族はどこで待つのか、一緒に並ぶのか、離れないほうが良いと思いますが、会場が混乱しないようにする必要があると思いました。また、その世帯の方で受け取り希望者が一人もいない場合には用紙の記入や列に並ぶ必要はないと思いますが、対応方法を検討する必要があると思います。
- ・様式例 5 に沿って、安定ヨウ素剤の説明を行いました。周りが雑然としているため、聞き取りにくい方がいました。口頭で説明するのであれば、電源喪失した場合や移動することを考えて、電池式のマイクとスピーカーがあるとよかったです。
- ・説明を聞き終わった人が一度に受領書記入と配布に流れ、列ができてしまうので、「当日の訓練の流れ」に記載してある 20 人ではなく、10 人集まったら説明を開始してよいと感じました。
- ・実際は、混乱している市民が避難してくる中、限られた職員で対応しないといけないので、誘導に追われ説明に時間を割けないのではないかと思います。アレルギーがある、錠剤を内服できない等の方もいたため、ヨウ素剤の説明は録音された音声等で繰り返し説明→受領書記入で個別対応→配布し内服のタイミングを伝えると個別にも対応できるのではないかと思います。
- ・様式例 5 ④13 歳以上の服用量が 1 丸となっていますが、2 丸の間違いでしょうか。
- ・訓練のためラムネを使用することを説明し配布しました。錠剤だと内服できない人がいたため、イメージできるよう様式例 5 に錠剤の写真を入れる、飲めない場合はゼリー剤があることも記載するとよいと思いました。

(3) 改善を要する事項（訓練方法等）

- ・水府総合センターに到着したところ、既に避難者の市民が数名おりました。まだ、避難指示の発令がされていない状況下だと思われました。何故か違和感を覚えた。
- ・一時集合場所における職名は一覧表では「一時集合場所責任者」だと思うのですが。。。任務には会場内誘導と一覧表に記載はありますが、職員説明資料には誘導の記載がありませんでした。事前説明会への出席が出来なかったこともあります。資料内での任務を整理してもらえれば助かります。当日は想定外のことも起きうることから（実際に想定外のことがあった）任務は併任ではなく専任としたほうが良いと思います。
- ・保健師 2 名は大子町までバスに添乗しました。持ち物に救護バッグの記載はありませんでしたが、万一に備えて持参しました。
- ・事前の説明会で、「あなたの役割はこれです」と詳しく説明をいただいて良かったのですが、会場が混乱した場合にはフォローに入るなど、チームとして協力して行えるようにお声掛けをしていただけると良いと感じました。また、フォローに入るためには、他の役割のことも把握しておく必要があると感じました。
- ・訓練全体の流れが把握しきれなかったため、全体の説明会もあると良いと思いました。
- ・受付→安定ヨウ素剤の説明→受領書の記入→安定ヨウ素剤の配布と説明を受けていましたが、業者・IC カード受付の県職員は認識が違っていた様子でした。説明をそれぞれで聞いたことで、流れに相違が起きていたので、可能であれば参加する担当者全員で同じ内容を聞き、共通

認識が持てるとよかったと思います。

- ・ホール内に報道・他市町村職員がおり、訓練中に質問され滞ることがあったり、ホール内に人が多すぎて誰が訓練参加者か見分けがつかないことがありました。訓練参加者以外は、ポール等で区切り報道・見学者スペースを作るとよかったです。
- ・扱いに慣れていないため、安定ヨウ素剤配布マニュアルにある丸剤をゼリーに換算した場合の量や総合福祉会館に保管してある物品の扱い方等についてご教示いただきたいです。
- ・薬剤師会の協力をもらうこと等も検討しても良いのではないのでしょうか。
- ・今回、テレビで避難指示が流れるのを職員が聞いていない。現場で実際に増井町の方が避難してきてしまったが、対応に苦慮した。

3 避難退域時検査場所

(1) 良好な事項

- ・車両検査からの一連の流れにおける係員等の配置体制は特に問題ないと思う。

(2) 改善を要する事項

- ・今回の訓練では、個人所有の車両による避難を複数台で実施しましたが、避難退避時検査所においては、車両誘導が追いつかず一時的に道路に待機していた状況などから、検査場所の設定位置、検査機器の配置、係員の習熟度など改善を要する箇所が散見されました。
- ・車両の放射線検査では、検査器具が小型のため時間がかかり交通渋滞が生じる可能性がある。

5 避難中継所・避難所

(1) 良好な事項

- ・袋田小学校で訓練の指示をしていた方のアナウンスが、とてもよく聞き取れた。
- ・原子力災害対応においては、他自治体との連携・協力体制が不可欠であることが確認できた。
- ・それぞれの訓練場所における受け入れ側の太子町の職員の対応が良かった。
- ・太子清流高校の支援が必要な方への対応について、飛び入り参加で高齢女性（杖をついた方）が参加されていたが、市職員が付き添い丁寧に対応していたのが良かった。（多分保健師）

(2) 改善を要する事項

- ・太子清流高校体育館での避難所訓練において、避難者への指示・誘導がもう少しわかりやすくなった方が良くと思いました。
- ・トイレの場所の表示や呼びかけを行うなど、避難者に伝わるようにした方が良くと思う。トイレ待ちの方に、外のトイレを促したところ、小走りで向かわれた方もいました。トイレに不安を感じている方への配慮も必要であると感じました。
- ・誘導等に関する掲示物等の表示において、駐車所から避難者受付までの誘導板等の表示が少し足りないと感じた。
- ・避難中継所における避難者向けの注意事項等を記した掲示物などがあれば良いと思う。
- ・太子中学校において、訓練管理者が説明を開始した瞬間、参加市民から「聞こえね～」と大きな声が发せられました。説明会等でもこのような光景、市民からの声が聞かれることがありますが、今回、太子中学校避難所には音響装置の準備がされていませんでした。訓練説明は終始、肉声で行われていました。正確な情報を伝える手段に欠けていたと感じます。実災害であ

れば正確な情報伝達ができなければ避難所運営全体に混乱をきたす状況にも成りかねないのではないか。最低でも拡声器の準備は必要ではなかったのかと感じた。太子清流高校避難所においては、音響装置が準備され使用されていました。このような状況を拝見し、避難場所によって対応の格差があっては如何なものかと感じた。

- ・避難訓練参加住民には、パーテーションと段ボールベッドの設置訓練のほか、避難所での過ごし方、そこで何をすべきかなどのレクチャーがあっても良いのではないかと思います。
- ・検査所で検査をし、避難所（太子小学校）の受付で、検査済証（青用紙）の提示を求められたが、検査済証を車に置いたままで、車に取りに戻る方が多かった。周知の徹底あるいは検査済証を首にかけられようにするなど、対応が必要では。
- ・太子清流高校において、太子町の職員から「バスで避難された方の責任者は誰ですか？」と聞かれました。ということは、バスが発車する常陸太田市側の担当と、バスが到着する太子町側の担当とで共有がされていなかったのかなと思いましたので、共有は大切だと思いました。
- ・太子清流高校での訓練指示は、早口でまくしたてるようで、ただうるさいだけで、何を言っているのか分からなかった。避難所は、高齢の方も多く、人が大勢いて、ガヤガヤしている状況であると思うので、住民に伝える、指示するというアナウンスは大きな声で、ゆっくりはっきりと意識してのアナウンスが重要であると感じた。
- ・袋田小学校と太子清流高校のスリッパについて、使い捨てスリッパとビニール袋が準備されていたが、事故発生の際には、体育館備え付けのスリッパ使用となるので、実際の場面と同じ想定で訓練した方が良いのではと感じた。
- ・太子清流高校に、高齢女性の飛び入り参加があった。杖をついた方であったため、急遽福祉会館から車いすを借りることとした。訓練は、事前申し込みとしているが、今回のように飛び入り参加の可能性もあることから、避難所には車いすを準備しておいても良いのではと感じた。

6 その他の取り組み

（１）良好な事項

- ・太子町と合同で訓練が出来たことは、良かったと思います。検証のうえ、今後活かしていければと思います。太子町の対応に感謝します。
- ・太子清流高校の受入体制について、路上で警察官などがしっかり誘導していて良かった。また、太子町職員の誘導など対応が良かった。
- ・ICカード利用による避難者受付体制の整備は、今後の避難者側・受け入れ側の習熟度向上を図ることにより、有効な手段となると思います。
- ・県が実証実験をしたDX受付は、これまでの紙ベースでの受付と比較しても、短時間のうちに簡単に受付ができていて良かった。
- ・ICカードによる受付は迅速かつ正確に処理できるという点で今後推進すべきと思う。
- ・県実証実験DX受付機器等は、データの共有により、避難所の状況や避難者の管理など多方面で効率化が図れ、実際にも使用可能と思え、良かった。
- ・双方向情報伝達システム、専用ICカードを使用したデジタル受付については、早期の実用化を願う。特にICカードの受付については、受付の簡素化、避難所運営職員の労務軽減、避難状況の把握、災害対策本部と活動隊の情報共有が図られ、さらに避難情報の一元化により、避難行動要支援者を避難させる際には特に有効ではないかと感じた。

- ・ICカードの受付は非常にスムーズで、とても良かった。
- ・双方向システムにより、避難者を把握できることは前進である。
- ・県の実証実験について、TVモニターから流れる文字情報と音声による情報伝達はわかりやすく緊急時には有効な手段である。

（２）改善を要する事項

- ・今回の訓練では、県の双方向情報伝達システムが試験的に実施されたところですが、AIによる読み上げ機能は、聞き取りづらく、早急な改善が必要であると感じました。
- ・県実証実験モニター画面について、テレビ画面の大きさにもよるのですが、文字が小さいのではないかと感じました。
- ・ICカードを付与するのは、マイナンバーカード、運転免許証などカードが所持するカード増えてしまうので現実的ではないと感じた。
- ・本部訓練において、住民への食料配布であったり、避難支援であったりを自主防災会にお願いするのは可能かという例が出た。自主防災会では、震災、水害等の災害で、自主避難所運営の訓練は実施していると思うが、原子力災害は、いち早く避難することを優先してしまうことも考えられる。自主防災会の訓練の中で、食料配布など、そのような想定も含めた訓練を実施し、協力求められるような体制を図っていく必要があるのではないかと考えた。
- ・避難指示が出ている段階で、逃げ遅れ者の確認や避難集合場所の係員及びインフラの運転管理等、誰がいつまで行うか決めておく必要がある。
- ・県職員について、腕章はしていましたが私服での参加でした。防災服の貸与はないのでしょうか。腕章を認識できなかった場合、避難者と間違える可能性もあると感じた。
- ・今回の参加者は、男性が多かったように思う。女性や子供の訓練も必要ではないかと感じた。